

2023年1月6日

各位

会社名 株式会社C a S y
代表者名 代表取締役 CEO 兼 CFO 加茂 雄一
(コード番号 9215 東証グロース)
問合せ先 代表取締役 CEO 兼 CFO 加茂 雄一
(TEL. 050-3183-0299)

2022年11月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年1月6日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月22日に公表した2022年11月期(2021年12月1日～2022年11月30日)の業績予想を以下の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 2022年11月期業績予想数値の修正(2021年12月1日～2022年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,459	百万円 66	百万円 53	百万円 67	円 銭 36.29
今回修正予想(B)	1,335	33	22	9	5.21
増減額(B-A)	△124	△33	△30	△57	—
増減率(%)	△8.5%	△49.7%	△58.4%	△85.6%	—
(参考)前期同期実績 (2021年11月期)	1,165	△1	△5	3	1.74

2. 修正の理由

売上高については、新型コロナウイルス感染症による影響は、行動制限を促すマイナス面と、新型コロナウイルス感染症により普及したリモートワークで自宅にて過ごす時間が増加することで家事代行の利用を促進するプラス面と両方があり、大きな影響は無い前提としており、その前提に変更はありません。一方で、感染が爆発的に増える波が発生した場合には、マイナス面の影響が相対的に大きくなるどころ、2022年11月期については、下期以降は波が発生しない前提条件に基づき算定しておりました。しかしながら、2022年11月期の下期に発生した第7波の影響で「家事代行サービス」とハウスクリーニングなどの「その他暮らしのサービス」ともにキャンセルや新規の利用控えが想定を超えたことで前回予想を下回る見込みとなった為、今期の売上高予想を前回発表予想に対して124百万円減(8.5%減)の1,335百万円に修正いたします。

売上高の内訳としては、売上高構成比97%を占める「家事代行サービス」が予算比93%、売上高構成比3%を占める「その他暮らしのサービス」が予算比53%の達成率となります。「家事代行サービス」の内訳としては、家事代行サービス売上高構成比79%を占める『定期サービス』が予算比94%、家事代行サービス売上高構成比21%を占める『スポットサービス』が予算比89%となっています。『定期サービス』については、定期契約の解約率はほぼ予算どおりであったため定期UU数は積み上がっておりますが、第7波の影響によるキャンセルで利用頻度の減少、また、新規の利用控えが起こった結果、件数が予算比93%となりました。

営業利益および経常利益については、売上高の減少に伴う粗利の減少により前回予想を下回る見込みとなった為、営業利益は前回発表予想に対して33百万円減の33百万円、経常利益は前回発表予想に対して30百万円減の22百万円となる見込みです。

当期純利益は、経常利益の減少に加え、会社分類の見直しは無いものの、来期の方針を鑑みて計上していた繰延税金資産 9 百万円を取り崩し、かつ、新たに計上する予定であった繰延税金資産 23 百万円を計上しない見込みとなった為、前回発表予想に対して 57 百万円減の 9 百万円となる見込みです。

以上